

2020年7月4日球磨川豪雨災害

国交省の

ウソ

ホント

市民の見た

川辺川ダム編



日本一の清流川辺川の流れ

ウソ

川辺川ダムがあれば、
人吉市の被害の
6割は無かった。



ウソ

人吉市でのピーク流量は
7,400 m^3/s だった。



ホント

ダムの効果を過大に計算。
あり得ないシミュレーション。

7.4 豪雨災害の原因となった線状降水帯は、天草市牛深方面から水俣市、芦北町から球磨村の最深部に至り、一部分かれて市房ダムの上流部にかかり、大雨を降らせました。しかし、川辺川ダムの集水域である五木・五家荘にはこの線状降水帯はかからず、川辺川上流部にあまり雨は降っていませんでした。川辺川の水による下流の人吉市の水害への影響は微々たるものです。たとえ川辺川ダムがあったとしても、被害の6割減少などあり得ず、あまりに過大なシミュレーションです。

ホント

過小見積もりする理由は、
川辺川ダム正当化のため。

国交省による豪雨災害時の推定ピーク流量は、実態に対してあまりに少な過ぎます。住民や専門家から 10,000 m^3/s 以上だとの指摘もあります。国交省が実態より少なく見積もっているのは、7,400 m^3/s より大きな流量だったことを認めると、例え川辺川ダムがあっても洪水を防げなかったことになり、不都合なため。「市房ダムと川辺川ダムがあれば、人吉では氾濫せず安全に流れる」とし、川辺川ダムの必要性を正当化するための国のウソです。

ウソ

球磨川第4橋梁と
洪水は関係ない。



ウソ

支流の氾濫は
球磨川本流氾濫による
バックウォーターが原因。



ホント

ずさんな洪水検証で
洪水要因を単純化。

7.4 豪雨災害の前日、球磨川と川辺川に挟まれた合流点の土地には、製材した材木が大量に置かれていました。これらが水害当日、氾濫で一斉に流され、上流からの流木や草とともに200mほど下流の球磨川第4橋梁に引っ掛かり、堰化してダムになりました。やがて川の水圧に耐えきれず、午前9時頃、大きな音と共に橋は倒壊し、貯まっていた水が鉄砲水となって人吉市ほか下流を襲ったと、多くの証言や痕跡から推定されます。しかし、このことに国交省も県も一切触れようとしません。球磨川豪雨災害の被害拡大には、第4橋梁ダム化や支流氾濫などさまざまな要因がありますが、国交省は十分に検証をせず、「上流に川辺川ダムを作れば良い」と単純化し、結論付けています。

ホント

本流より先に支流が氾濫。
ダム正当化のためのウソ。

「本流の水位が上がったために、支流が合流点でせき止められ逆流して氾濫した」「川辺川ダムで本流の水位を下げれば、本流も支流も氾濫しない」というのが国交省のバックウォーター説です。しかし、山田川など球磨川支流の氾濫は、午前6時頃から始まり午前6時半から午前7時過ぎにピークに達しました。人吉で亡くなった20名の方々はすべて支流氾濫によるもので、球磨川がピーク流量に達する午前9時より2時間あまり前。バックウォーターによる氾濫が原因とは考えられません。

2020年7月4日球磨川豪雨災害

国交省の

ウソ

ホント

市民の見た

瀬戸石ダム編



2020年球磨川豪雨時の瀬戸石ダム

ウソ

瀬戸石ダムによる
水位上昇はなかった。



ホント

瀬戸石ダムによって
約7mも水位が上昇した。

ダムを管理運営する電源開発（株）は豪雨災害時、ダムによる水位上昇はなかったとし、国交省もそれを追認しています。しかし、住民側の調査ではダムが無かったとしたら、ダムの上流では水位は最大約6.8m下がることが明らかになっています。つまり、逆に言えばダムがあったために7m近く水位が上昇したことになります。

ダムが流域住民の安全安心な生活を害する存在であることを覆い隠し、瀬戸石ダムを存続させ、川辺川に予定している新たなダム建設の障害にならないようにするための、電源開発と国交省のウソです。

ウソ

瀬戸石ダムは黒字である。



ホント

収入に対して、堆積土砂
撤去費用だけでも大赤字。

電源開発は、瀬戸石ダム単体で見ると黒字であると主張しています。しかし、瀬戸石ダムの売電収入は、推定年間1億2千万円。瀬戸石ダムに関係する支出のうち、電源開発が毎年行っているダム湖にたまった土砂撤去費用は最低でも約3億円に上るとみられ、ダムの収支は完全な赤字と推測されます。黒字と主張する理由は、ダム単体では黒字であると見せかけ、株主などのステークホルダーにダムの撤去を求めさせないようにするため。収支に厳しい民間企業がこのような赤字のダムをなぜ存続させるのか、その理由は不明です。

ウソ

災害時、瀬戸石ダムは
ゲートをすべて開放し、
自然河川に近い
状態だった。



ホント

ゲートを開放しても流れが
阻害され、下流被害を拡大。

「豪雨災害時、瀬戸石ダムはゲートをすべて開放し、自然河川に近い状態になった」と電源開発は主張しています。

しかし、そもそもダムができる前に比べて川幅は6割以下になっているため、どんなにゲートを開けたからと言ってもダムのない頃の自然河川に近くなったとは到底言えません。しかも、狭められた川の中でダムの構造物自体が川の流れを阻害し、その割合は約3分の2とも言われています。このことにより水の流れがさえぎられ、ダム湖には大量の水が溜まり、ゲートからはその圧力で極めて強い勢いで水が放流され、下流の建造物などを跡形もなく流し去りました。

知ることからはじめよう

国や県、それをそのまま掲載するメディア報道には、事実と異なる情報も混ざっています。ぜひ「本当のこと」を知って下さい。そして球磨川流域の川とともにある未来を私たちといっしょに考えてみませんか。

子守唄の里・五木を育む
清流川辺川を守る県民の会
〒860-0073熊本市西区島崎4-5-13
TEL:090-2505-3880
<https://kawabegawa.jp>
info@kawabegawa.jp



オンライン寄付



活動を支援して下さい

●活動カンパ寄付先:

ゆうちょ銀行 七一八支店 普通

口座番号: 2393339

口座名義: 五木を育む清流川辺川を守る県民の会